

# 雄勝稲作情報

No.2 令和8年4月20日



発行 ● こまち農業協同組合  
湯沢主食集荷商業組合  
湯沢市農業総合指導センター  
東成瀬村農業総合指導センター  
秋田県農業共済組合  
監修 ● 雄勝地域振興局農林部農業振興普及課  
雄勝地方病害虫防除員協議会

## 雄勝稲作情報発行計画

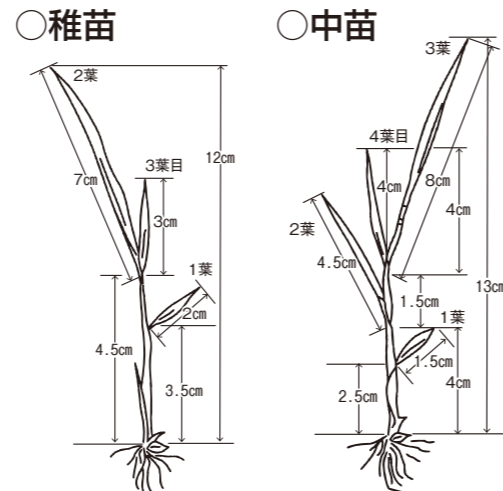
令和8年度の「雄勝稲作情報」は下記の通り発行予定です。良い出来秋を迎えるためにご活用いただきますようお願いいたします。

号	発行予定	内 容
1	2月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>気象変化と環境に配慮した稲作への取り組み</li> <li>今年の稲作重点事項</li> <li>適切な種子よそと温度管理で害虫の予防と健苗育苗</li> </ul>
2	4月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>雄勝稲作情報発行計画</li> <li>育苗期いもち防除の徹底</li> <li>目標とする苗の姿</li> <li>本田の準備</li> </ul>
3	6月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの気象経過</li> <li>生育状況（分けつ盛期まで）</li> <li>微量要素肥料の追肥（調節肥）で異常気象に強い稲を！</li> </ul>
4	8月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの気象経過</li> <li>生育状況について（出穂期まで）</li> <li>斑点米カメムシ類防除対策(2)</li> </ul>
5	12月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年産米の振り返り</li> <li>令和9年産米の栽培に向けて</li> </ul>

## 目標とする苗の姿と育苗管理

○「苗半作」と言われます。苗の種類をよく理解し健苗育成に努めましょう。

項 目	稚 苗	中 苗
箱当りは種量	180g	100g
必要箱数	19箱/10a	27箱/10a
準備種子量	乾籾4kg	乾籾3kg
育苗日数	20日~25日	35日~40日
葉 数	2.0~2.5葉	3.5~4.0葉
出 芽 長	1cm	0.5cm
移 植	平均温度は13℃以上、60~70株/坪、1株植付け数4~5本で生育・収量の安定性が高い	平均温度は14℃以上、60~70株/坪、1株植付け数3~4本で生育・収量の安定性が高い



近年の地球温暖化で、気温が高い条件での育苗管理になります。育苗ハウス内を「蒸らさない」ように、換気重視で管理しましょう。苗の育苗日数も、気持ち短めにして、老化苗に注意しましょう。

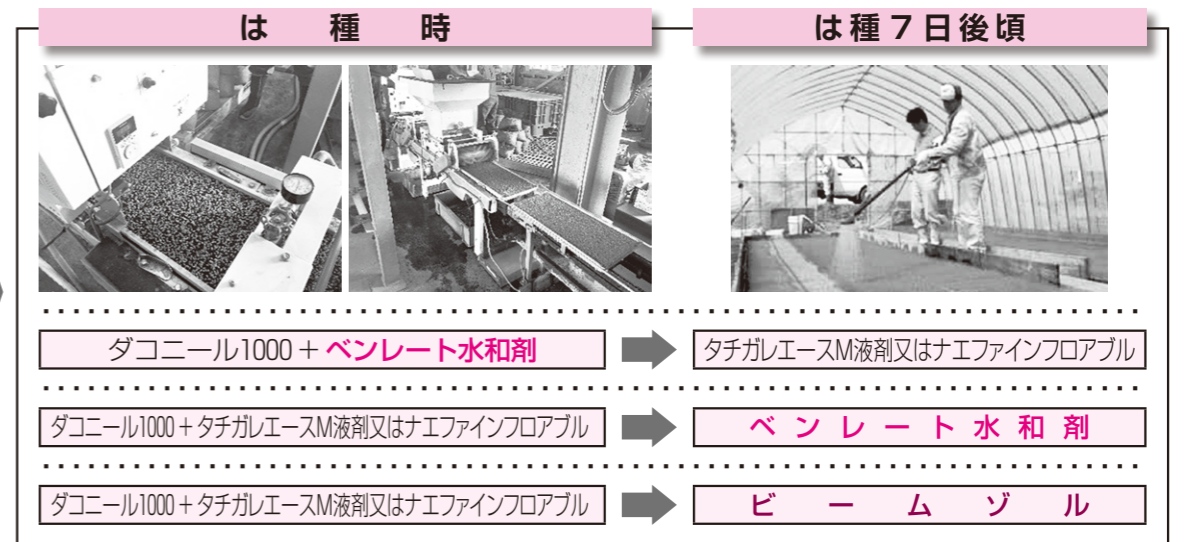
## 育苗期のいもち病防除を徹底しましょう！

本田におけるいもち病の発病の主因は、育苗段階で発病・感染した苗の本田への持ち込みであると言われています。したがって、育苗期のいもち病防除（ベンレート水和剤もしくはビームゾル）は必ず実施しましょう。

※特別栽培米等で使用農薬に制限がある場合は、各組織の防除暦に従ってください。

薬 剤 名	散 布 時 期	箱 当 り 使 用 量	備 考
ベンレート水和剤	は種時~は種14日後まで	500倍液 500ml	かん注
	は種時~は種7日後頃	1,000倍液 1L	
ビームゾル	緑化始期	500倍液 500ml	かん注

### いもち病と立枯病の育苗期防除例



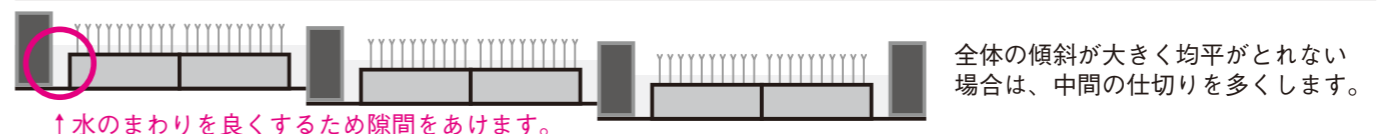
## プール育苗のススメ

○プール育苗は、出芽から緑化までは通常の育苗管理を行い、緑化終了後から湛水します。湛水以降は、毎日のかん水やハウス開閉の手間が省けるので、育苗管理を大幅に省力化できます。

○しっかりとした湛水管理により、カビや細菌による病害やムレ苗などが発生しにくくなることから、「農薬節減技術」としても推奨しています。

### <時期別管理のポイント>

生育管理	は種~出芽揃い	緑 化 期	プール湛水期	田植え
被 覆	●育苗期の利用【加湿出芽】 ○被覆資材の使用【無加湿出芽】	・光にならず ・4℃以下の時は保湿マットで被覆する	・湛水開始は、本葉1.0~1.5葉から(根が箱底に達成) ・ハウスは全開放	
温 度	●加湿出芽 30~32℃:一定 ○無加湿出芽 15~30℃:変化	・温度の目安 日中: 20~25℃ 最低: 5℃	・温度の目安 日中: 25℃ 最低: 10℃ (水温も準ずる)	・田の地温と水温を高めておく
水	・は種時、床土に十分かん水する ・保湿を保つ	・床土や覆土がかなり乾燥した場合のみかん水	・常時湛水(水深) 通常時:箱上1~2cm 低温時:苗丈の半分	○保温的管理(深水管理)
注 意 点	・催芽はハト胸状態 ・床土のpH調整 pH: 4.5~5.5 ・出芽長の目安 中苗: 5mm以下 稚苗: 10mm以下	・箱上からかん水はできるだけ控える ※どうしてもかん水が必要な場合は、ラプシートを被覆したまま行う方法もある	・湛水は早朝に行う ・水温を常時観察する ・落水は田植え2~3日前とし、苗箱の軽量化を図る	



## 本田の準備

- 速やかに田面の停滞水を排水し、**土壌の乾燥を促進**しましょう。（サブソイラによる補助暗渠施工や、明渠・暗渠排水等）
- ネズミ穴などによる畦畔からの漏水を防止するため、**積極的に畔塗り**を行いましょ。
- 耕起作業は、根域確保のため、**耕深15cm**を目標に行いましょう。作業機の端を重ねて起こしムラが無いように注意しましょう。
- 代かき整地は、**少なめの水で行い**稲ワラ・稲株の浮き上がり防止します。荒代・仕上げ代を行い田面の均平精度を上げましょう。
- 最近の前年度のワラや稲株が原因で、ガス湧きが起こりやすくなっています。根痛みの原因にも繋がりますので、積極的に**鉄を含む土壌改良資材**を活用しましょう。

## 田植の注意点

- 田植をする日**  
田植は**最高気温20℃前後の温暖な日**に行い、15℃以下の日は極力控えましょう。強風、低温の日は植え痛みをおこし、活着や初期生育の遅れにつながります。
- 栽植密度**  
安定的に生育・収量を確保するため、栽植密度は**70株／坪**を確保するように努めましょう。
- 植付本数**  
株あたり植付本数が多いと初期分けつが抑制されます。植付本数は**3～4本／株**になるように調節しましょう。
- 植付の深さ**  
深植えをすると分けつ抑制、浅植えでは転び苗になるため、植付の深さは**2cm程度**になるように調節しましょう。

## 生育初中期の水管理と主要作業 自分から仕掛けて生育をコントロールします

水管理と作業のイメージ 5月20日田植のモデル

月	5											6											7																													
日	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水管理	深水管理 10cm程度											飽水管理の継続 水位が2～3cmになるまで入水し、自然減水し、田面を露出させ土中に酸素を取り込む。田面の足跡や溝に水が残っている状態を確認後、再び入水する。これを繰り返す。											深水管理 15cm程度 ただし 深水できない場合は直ちに溝切・中干し										中干し										飽水管理									
生育ステージ	移植期					活着期						分けつ始期						分けつ盛期					有効茎決定期					最高分けつ期																								
栽培管理	無効分けつを抑制 除草剤効果の安定											葉色を濃く保ち分けつ促進 6月25日まで穂数と同じ茎数の確保を目指す 土壌を酸化的条件に保ち、ガス湧きや表層剥離、根痛みや葉枯れを起こさない											目標茎数の8割を確保または、 茎数不足でも葉数が進んでいる場合 深水を行って無効茎を出さない										中干しで土を締める 土中に酸素を入れて 根を深く張らせる																			
主作業	田植 除草剤散布 いもち箱処理剤											除草剤散布（取りこぼしある場合） 中・後期剤を雑草の種類に合わせて											オリゼメート散布 （田植時に箱処理剤を散布しなかった場合）										溝切																			
田植後日数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51

## 除草剤の上手な使い方 早め早めの散布を！

雑草葉齢進展の目安と除草剤散布適期

代かき 田植え

※除草剤は草が見える前に散布するのが基本です。  
※気温の状況により葉齢進展スピードが速まる場合があります。

雑草葉齢進展の目安	代掻き後日数	葉齢																			
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
ノビエ															1.0葉	1.5葉	2.0葉	2.5葉	3.0葉		
ホタルイ																	1.0葉	2.0葉	3.0葉		
コナギ																	1.0葉	2.0葉			
アゼナ																			1.0葉		

除草剤散布体系

初期剤+初中期一発剤	代掻きと田植・除草剤の間はできるだけ短く！	初期剤				初中期一発剤				
初中期一発剤のみ					初中期一発剤					

## 溝切のススメ 実施時期に新提案あります

- 飽水管理を行うことで田面が締まるので、溝切の実施時期について、新しい提案があります。
- 溝切は、深水管理または中干し開始のタイミングで実施**してください。これは、稲が生殖成長に入って横根を出し始める前に溝切し、溝切で横根を痛めたくないためです。
- 乗用型溝切り機は少し水を張った状態で行うと作業効率が上がります。
- 排水不良田や高低差がある圃場では、必ず行ってください。
- 中干しは足跡がつく位の土の締め具合になったら終了し、飽水管理に移行します。**乾かしすぎないように注意**します。

### 中干し・溝切りの効果

- 土中のガスを抜く
- 土中に新鮮な空気を供給
- 根を下方に深く伸長
- 田面を縮めて刈取作業を容易に
- 無効分けつ抑制
- 生殖成長への切り替え
- 受光体勢の向上